

# 原爆忌わが胃切らるる刹那はも

藤田湘子

平成四年八月、六十六歳の湘子は、国立がんセンターにて手術を受け、胃の三分の二を切除した。同年の「鷹」十月号発表時は「原爆日わが胃切らるる刹那あり」となっている。「爽涼や眺めて腹の手術痕」の句もあり、開腹手術に対する不安と安堵の入り交じった手術前後の感懐であろう。

十一月号には「二十年いのち儲けやいわし雲」「秋風のうしろへまはれしじみ蝶」そして、十二月号では「くらげにもなりたく人も捨てがたく」と詠んでいる。(句集収録時は漢字表記の「命」「水母」)。後年書かれた自註には、自重せよという天の声と思ひ、ものの「いのち」ということが大きく心を占めてきた、とある。

1992年(平作)第十句集『神楽』 鑑賞・野本京